

文部省オリンピック普及資料作成委員会編

『－オリンピックを見るために－』

1964年9月、56ページ・付表(会場への案内図)、非売品、文部省

小松原 尚

【解題】

著者の専攻分野である地理学における教育に関する研究は、地域における環境を対象に自然現象と人文現象を具体的、統一的に観察し、児童・生徒や学生の学びの素材としての可能性を探求すること、あるいはその手法を磨くことに主眼がある。したがって、ローカル、ナショナル、インターナショナルのレベルを問わず開催されるイベントもその開催地やそれへの参加の地域や企業・団体などへの関心を高めることから、地域理解にとっては重要な教材となると考えられる。

学校など、児童・生徒、学生(学生ら、と略記する)の学びの場や教育活動のための素材となる場所を学習空間と定義すると、ここでの教育活動においては、座学で得た知識を踏まえ、実体験を通して定着させることも含まれる。その意味から、イベントは日常の講義、すなわち座学で学んだことを学校の外で学生らが自ら実際に確認する機会も必要となるので学習空間の構成要素になる。そして、その利用は地理教育にとっても有意義に思う。

それではインターナショナルレベルの大きなイベントの一つであるオリンピック・パラリンピックについては教育的価値をどのように考えられているのであろうか。2016年7月21日に発行された、オリンピック・パラリンピック教育に関する有識者会議の編集になる「オリンピック・パラリンピック教育の推進に向けて／最終報告」から確認しておこう。それによるとオリンピック・パラリンピック教育は「スポーツの価値や効果の再認識を通じて自己や社会の在り方を向上させることにより、国際的な視野を持って世界の平和に向けて活躍できる人材を育成し、求められる社会の将来像を実現しようとするものである」と述べられており、先に述べた地理教育の観点とも呼応すると考えられる。

さらに、真田久(2015,p.29)によれば、「筑波大学オリンピック教育プラットフォーム(Centre for Olympic Research and Education)」におけるオリンピック教育の定義を念頭に、スポーツやオリンピック(パラリンピック含む)を教材として、

研究資料

国際的な視野を養い、世界の平和に向けて活躍できる人材を育成する活動とオリンピック教育を位置付けている。そして、その具体的な学習内容の一つに「世界各国・地域の文化や社会問題」をあげていることから、地理教育との関連性を読みとれる。

オリンピック教育は、「最初に組織的に取組んだのは、1964年の東京大会の時であり、世界で最も早く、オリンピック教育が実施されていた」（真田2015,p.30）のである。

オリンピック教育（オリンピック学習）の内容は、真田（2015,p.30）によれば、「オリンピック東京大会の成功をめぐって展開された『オリンピック国民運動』と関わって行われた」ことがわかる。その「オリンピック国民運動」というのは、「オリンピック精神の普及高揚および市民性の向上をはかることを主眼としたもので、オリンピック理解、国際理解、公衆道徳高揚、商業道徳高揚、国土美化、健康増進をめざした運動」と説明されている。

そして、この運動を背景に文部省は、1964年4月に「学校におけるオリンピック国民運動の取り扱いについて」と題する通達を発している。その目的としては、①児童生徒にオリンピック精神をつちかうこと、②日本人としての自覚に立ちながら国際親善と世界平和への態度を養うことであった。

先に紹介した「オリンピック・パラリンピック教育の推進に向けて／最終報告」の資料によると、当時の文部省は、オリンピックの基礎知識やオリンピック精神を普及させるため、小学生向けと中学生向けに「オリンピック読本」を作成した。そしてこれを参考資料として、東京都をはじめとし、地方自治体が独自の読本を作成していった。以下に紹介する千代田区の事例にとどまらず、自治体レベルでの小学生を対象にしたオリンピックに関する学習ガイドブックが刊行されている。例えば、京都市、埼玉県、栃木県、大阪府などが独自の企画になる「オリンピック読本」を制作している。

先述の文部省の通達を踏まえて、自治体ではオリンピック教育のための教師用の指導書を公表している（真田，2015,p.30）。例えば東京都千代田区教育委員会では、「オリンピックと学校－オリンピック学習の手引き」を編集している。その中で、地理教育と関連性のあるものをあげると、社会科2年では、〈ゆうびんきょくの人の〉の単元で、オリンピック参加国との通信などにも目を向けさせるとともに、切手を持ちより、各国の切手の中からオリンピック参加国を見つける学習活動や、社会科6年の〈世界の平和についての学習〉では、オリンピック精神について調べ、平和への努力と平和への願いは人類の願いであることを理解するためにオリンピックに関する学習を位置づけている。

さて、本稿にて紹介する「一オリンピックを見るために一」はオリンピック開催日の迫った1964年9月に文部省から刊行されたものである。ただ、これまで参照した文献には紹介されていない。

この冊子は、そのタイトルの通り、児童・生徒がオリンピックを観戦するためのガイドブックである。「口絵」の部分には聖火台から俯瞰した国立競技場や入賞メダル、記念切手の写真が掲載されている。

目次を見ると、開催競技の解説に大半を割いていることがわかるが、それにとどまらず、「オリンピック国民運動」と連動した記述が随所にみられる。まず最初に、オリンピック見学のために会場に行く際の注意事項が、集合時、競技会場への入退場時、そして観戦時にわたって記すられている。例えば集合時の項目には、会場への経路の事前確認、時間厳守、携行品に関すること、また、競技会場では、教師の指示遵守、会場美化への協力、そして、観戦に際しては、応援マナー、外国人選手への応対、選手と国に対するリスペクトにふれている。

さらに、競技ごとの観戦解説に関しては競技や会場の説明だけでなく、観戦態度やマナーにも言及している。例えば選手の集中力をそがないように気を付けることへの注意喚起がなされている。具体的には、陸上競技では、トラック種目のスタート時点、フィールド種目の試技開始の時、「選手の気持ちになって静かに」するように留意点を記している。この点については、他の種目でも述べられている。バスケットボールのフリースローのとき、体操競技、ウエイトリフティング、水泳および飛び込みに関しても類似の記述がみられる。また、危険防止の観点から、漕艇では、水路への接近と物の投げ込み禁止、自転車競技のロードレースの時には、車道に出ないようにとの注意書きがある。そして、観戦マナーについては、「拍手声援は節度をもって」（陸上競技、水泳および飛び込み）、「審判の判定に不満なため、口笛をならしたり、さわいだりしない」（ボクシング）と記されている。

東京大会の前のローマ大会の記録が掲載されている競技もある。陸上、ボクシング、カヌー、自転車、フェンシング、体操、ウエイトリフティング、レスリング、水泳および飛び込み、近代五種、馬術、射撃、ヨットである。また、柔道は東京大会で採用された競技なので、過去の世界選手権大会優勝者名を挙げている。

最後に、芸術展示の紹介もなされているのは、これが各競技と同じように開催しなければならない重要なものであるからである。古典芸能、絵画・彫刻・写真など多岐にわたる展示や公演が都内で開催されている。

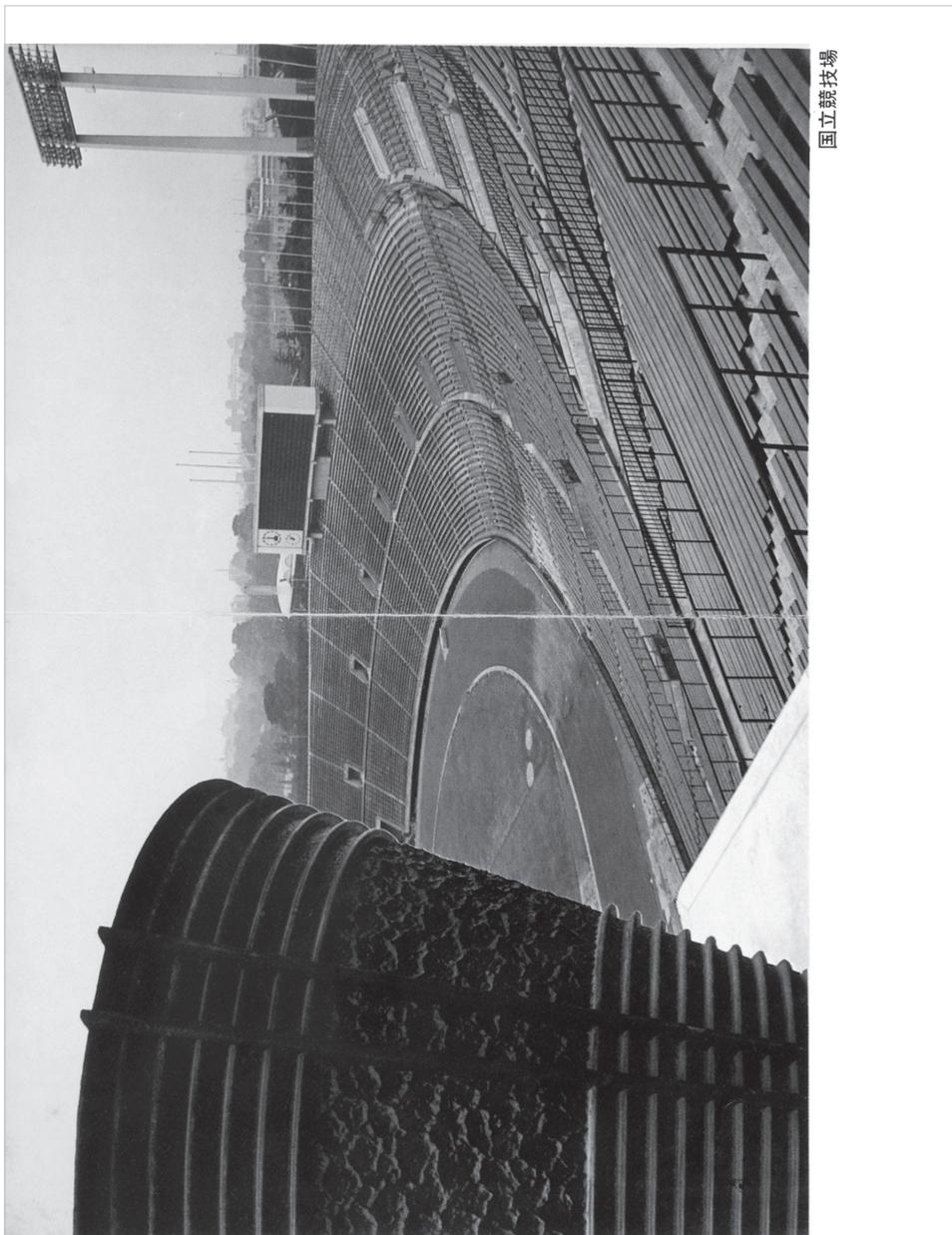
文献

真田久（2015）：オリンピック・ムーブメントとオリンピック教育，スポーツ教育学研究，34-2，29-33.



文 部 省

なまえ



国立競技場





中央のメダルはオリンピックバッジ東京大会記念メダルのデザインです。

オリンピックを見るために

オリンピックを見るときには次の注意をじゅうぶんに守りましょう。

- 1 集合するとき
 - (1) 決められた集合時間に遅れないよう、時間にじゅうぶんゆとりをもって家を出ること。
 - (2) 会場までの所要時間、順路、利用交通機関などは前もってじゅうぶんに調べておくこと。
 - (3) 場内の手洗い所や水飲み場などは混雑するので、できるだけ利用しないですむよう、あらかじめ各自で心がけること。
 - (4) 当日の天候によっては雨具、水筒等を用意すること。
 - (5) 服装や携行品など、学校からの指示をよく守ること。
- 2 入場、退場するとき
 - (1) 入場、退場するときは引率の先生や係員の指示に従って静しゆくに、敏速に行動すること。
 - (2) 会場にはいったら決められた座席に早く着席し、みだりに席を立ったりしないこと。
 - (3) 会場の内外では絶対に紙くすなどを散らさないようにすること。退場の内外では必ず自分の周囲を見まわし、紙くすなどがあつたときは、まとめて所定の場所にあるくす入れに捨てること。
 - (4) 会場の内外等で特別の事態がおこつたときでもあわてず落ちついて係員や引率の先生の指示に従って敏速に行動すること。
 - (5) 気分が悪くなつたら引率の先生に申しでて指示をうけること。
- 3 観戦を見るとき
 - (1) 選手がアレーをしようとすることは選手の心を乱さないよう、静しゆくにすること。
 - (2) 勝敗にこだわつて選手に悪い感じを与えないこと。つつかいや態度をつしむこと。
 - (3) みごとなアレーや、りっはな態度を示した選手たちには心から拍手をおくること。
 - (4) 競技中座席から立ちあがったり、席を離れたりして、ほかの人の見学のままたげになり行動はしないこと。
 - (5) 表彰式などで国旗があがつたり国歌が演奏されたりするときは起立、脱帽して姿勢を正し敬意をあらわすこと。また選手やチームの健闘とその栄誉をたたえること。
 - (6) 外国の選手、役員にサインをたのまないこと。

目次

口 絵	国立競技場	
	オリンピック記念切手とメダルのデザイン	
	オリンピックを見るために	9
	競技のあらまし	
1	陸上競技	10
2	漕艇	14
3	バスケットボール	16
4	ボクシング	18
5	カヌー	20
6	自転車競技	22
7	フェンシング	24
8	蹴球	26
9	体操	28
10	ウェイトリフティング	30
11	ホッケー	32
12	柔道	34
13	レスリング	36
14	水泳および飛び込み	38
15	近代五種競技	40
16	馬術競技	42
17	射撃	44
18	バレーボール	46
19	水球	48
20	ヨット	50
21	芸術展示	52
付 録		
	国内オリンピック委員会一覧	53
	会場への案内図	

1. 陸上競技

●場 所 国立競技場

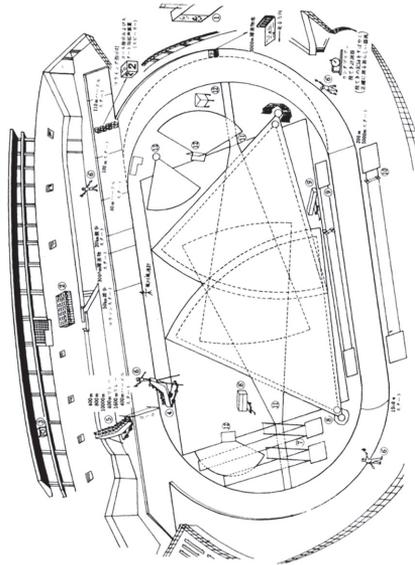
(マラソン 甲州街道コース

(競歩 明治神宮外苑周回コース、甲州街道コース

●競技を行なう日

10月	14日	15日	16日	17日
競技開始時間		10.00		
試合	子選、決勝	子選、準決勝、決勝	子選、準決勝、決勝	子選、準決勝、決勝
	10.00	19日	20日	21日
	子選、準決勝、決勝	子選、準決勝、決勝	子選、準決勝、決勝	子選、準決勝、決勝

(競技会場図)



●種目

1 男子個人種目

(1)トラックおよびロード種目

100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、10000m、

110mハードル、400mハードル、3000m障害物、マラソン、

競歩 (20km、50km)

(2)フィールド種目

走り高とび、走り幅とび、三段とび、棒高とび、砲丸投げ、

円盤投げ、ハンマー投げ、やり投げ

(3)十種競技

第1日 100m、走り幅とび、砲丸投げ、走り高とび、400m

第2日 110mハードル、円盤投げ、棒高とび、やり投げ、1500m

2 女子個人種目

(1)トラック種目

100m、200m、400m、800m、80mハードル

(2)フィールド種目

① 電光掲示板、大時計

③ 写真判定機

⑤ 計時員

⑥ 監察員

⑧ 円盤投げ、ハンマー投げ

⑨ 三段とび

⑩ 走り幅とび

⑫ 走り高とび

⑬ 砲丸投げ

② 貴賓席

④ 決勝審判員

⑥ 監察主任

⑦ 棒高とび

⑧ 投てき用電光記録表示板

⑨ 跳やく用電光記録表示板

⑪ やり投げ

⑫ 高度表示器

オリンピック標準記録 (1963. 4. 29 決定)

男子	100m	10秒4	100m	女子	10秒7
	200m	21秒0	200m		24秒2
	400m	47秒0	400m		55秒5
	800m	1分48秒8	800m		2分08秒0
	1500m	3分43秒5	80mハードル		11秒0
	5000m	14分02秒0	走り高とび		1m70
	10000m	29分25秒0	走り幅とび		6m00
	3000m障害物	8分46秒0	砲丸投げ		15m00
	110mハードル	14秒2	円盤投げ		50m00
	400mハードル	51秒8	やり投げ		51m00
	走り高とび	2m06	五種競技		4,500点
	走り幅とび	7m60			
	棒高とび	15m80			
	砲丸投げ	4m60			
	円盤投げ	17m80			
	やり投げ	55m00			
	ハンマー投げ	77m00			
	十種競技	63m00			
		7,000点			

ローマ大会の記録 (抜粋)

男子	100m	ハリス (ドイツ)	10秒2
	400m <td>ハリス (アメリカ) <td>44秒9</td> </td>	ハリス (アメリカ) <td>44秒9</td>	44秒9
	800m <td>スネル (ニュージーランド) <td>1分46秒3</td> </td>	スネル (ニュージーランド) <td>1分46秒3</td>	1分46秒3
	110mハードル <td>カルホーン (アメリカ) <td>13秒8</td> </td>	カルホーン (アメリカ) <td>13秒8</td>	13秒8
	走り高とび <td>ボストン (アメリカ) <td>8m12</td> </td>	ボストン (アメリカ) <td>8m12</td>	8m12
	三段とび <td>シュミット (アメリカ) <td>16m81</td> </td>	シュミット (アメリカ) <td>16m81</td>	16m81
	走り高とび <td>ジャフラカゼ (ソビエト) <td>2m16</td> </td>	ジャフラカゼ (ソビエト) <td>2m16</td>	2m16
	棒高とび <td>アラック (アメリカ) <td>4m70</td> </td>	アラック (アメリカ) <td>4m70</td>	4m70
	ハンマー投げ <td>ルデニコフ (ソビエト) <td>67m10</td> </td>	ルデニコフ (ソビエト) <td>67m10</td>	67m10
	マラソン <td>アルベベ (エチオピア) <td>2時間15分16秒2</td> </td>	アルベベ (エチオピア) <td>2時間15分16秒2</td>	2時間15分16秒2
	100m <td>ルドルフ (アメリカ) <td>11秒0</td> </td>	ルドルフ (アメリカ) <td>11秒0</td>	11秒0
女子	400m <td>シェアコバリ (ソビエト) <td>2分04秒3</td> </td>	シェアコバリ (ソビエト) <td>2分04秒3</td>	2分04秒3
	800m <td>アレックス (ソビエト) <td>10秒8</td> </td>	アレックス (ソビエト) <td>10秒8</td>	10秒8
	走り高とび <td>クレアキナ (ソビエト) <td>6m37</td> </td>	クレアキナ (ソビエト) <td>6m37</td>	6m37
	走り高とび <td>バラス (ルーマニア) <td>1m85</td> </td>	バラス (ルーマニア) <td>1m85</td>	1m85

- トラック種目で、選手がこれからスタートをしようとするときや、フィールド種目で選手が試技をはじめようとするときは、選手の気持ちになつて静かにしましょう。
- 記録の発表のときは、静かに聞き、できるだけ記録しておきましょう。
- 拍手声援は節度をもってやりましょう。

走り高とび、走り幅とび、砲丸投げ、やり投げ

(3)五種競技

第1日 80mハードル、砲丸投げ、走り高とび

第2日 走り幅とび、200m

3 男子団体種目

400mリレー(4×100m)、1600mリレー(4×400m)

4 女子団体種目

400mリレー(4×100m)

●申し込みの人数

個人種目 1国からの申し込みは、1種目につき3名までであるが、2名または3名を申し込みときは、申し込み選手が1963年10月1日から1964年9月30日までに国際陸上競技連盟で決めた標準記録に達していなければならぬ。

1名を申し込みときは、標準記録に達していない選手でもよい。マラソンと競歩は、標準記録が決められていないので、3名まで申し込みができる。

団体種目 1国1種目について1チームである。申し込みの選手数は6名で、このうち4名が競技に出場する。

●競技の方法

予選、決勝(100m、200m、400m、400mリレーなどは準決勝も行なわれる。)を行なって順位を決めるが、トラック種目では、予選(準決勝も含む。)の各組のレースで上位にはいったもの(3着までとか4着までとか種目によって異なる。)が決勝に出場する。マラソン、競歩、十種競技、五種競技は予選がない。フィールド種目では、予選通過記録が決められ、これを通じたもの12名で決勝が行なわれる。予選通過記録に達したものが、12名に満たない場合は、上位12位までおよび12位と同記録の選手が決勝に出場する。

2. 漕艇

- 場所 戸田漕艇場
- 競技を行なう日

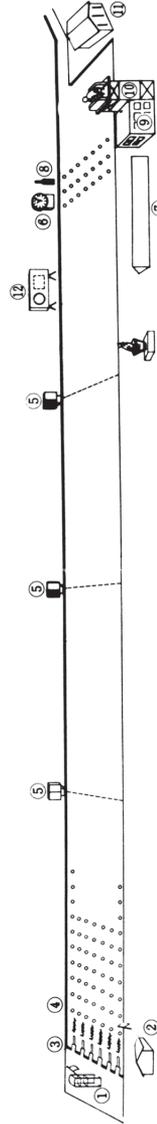
10月	11日	12日	13日	14日	15日
競技時間 10 00 ～16 30	予選	予選 敗者復活戦	予選 敗者復活戦 準決勝	予備日	決勝 14 00 ～17 00

- 種目
シングルスカル
ダブルスカル
舵手なしペア
舵手つきペア
舵手なしフォア
舵手つきフォア
エイト

- 申し込みの人数
各国各種目について1クルーの人員と、補欠とで32名となる。

	出場漕手	出場舵手	補漕手	補欠舵手	補欠舵手
シングルスカル	1		}	1	
ダブルスカル	2				
舵手なしペア	2				
舵手つきペア	4	1		1	}
舵手なしフォア	4	1		1	
舵手つきフォア	8	1		2	1
エイト					
合計	23	3		5	1

〔競技会場図〕



- 競技の方法
申し込み数によって多少の差があるが、予選 敗者復活戦 準決勝と行なわれる。敗者復活戦は、予選のレースで次の準決勝に出場する資格（普通1位か2位であるが、種目によって異なる。）を得られなかった艇が出場する。この敗者復活戦のレースで上位にはいると予選通過の艇と同じ資格で次の準決勝に進むことができる。

●ローマ大会の記録

シタ	ン	グ	ル	ス	カ	ル	ソ	ビ	エ	ト	7分13秒96
ダブルスカル	7分47秒50										
舵手なしペア	7分02秒01										
舵手つきペア	7分29秒14										
舵手なしフォア	6分26秒26										
舵手つきフォア	6分39秒12										
エイト	5分57秒18										

- 決められた席で観覧し、コース（水路）に近づくことはやめましょう。
- コースに物を投げ込んだり、観技のさまたげになることは絶対にやめましょう。

- ①発艇塔
- ②発艇事務所
- ③スタートライン
- ④スタートライン
- ⑤ラップ計時地点
- ⑥秒大時計
- ⑦観覧席
- ⑧ゴールライン
- ⑨本部
- ⑩判定塔(写真判定装置)
- ⑪艇庫
- ⑫電光掲示板

3 バスケットボール

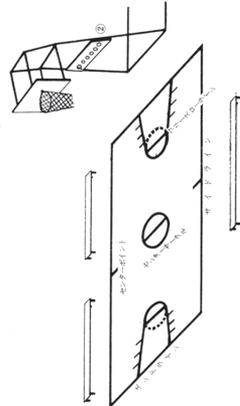
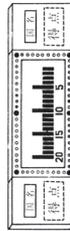
●場所 屋内総合競技場別館

●競技を行なう日

10月	11日	12日	13日	14日	16日
競技時間	9.00-22.00	9.00-22.00	9.00-22.00	9.00-22.00	9.00-22.00
試合	予選リーグ	予選リーグ	予選リーグ	予選リーグ	予選リーグ
	17日	18日	20日	21日	22日
	9.00-22.00	9.00-22.00	14.00-21.30	14.00-21.30	14.00-21.30
	予選リーグ	予選リーグ	順位決定戦	順位決定戦	順位決定戦
	23日				
	14.00-21.30				
	順位決定戦				

〔競技会場図〕

- ①得点表示は画面側において、中央には1分経過することにより、残る20分の目盛りと、そのまわりに1秒ごとに残った目盛りと、秒表示ランプの数字によって競技の残り時間を表わす。
- ②30秒ランプ表示器は、点燈している青黄赤のランプから残り5秒経過することにより一つずつ消える。



- 参加チーム
東京大会のバスケットボール参加国は次のとおり決定している。

- 1 アメリカ、ソビエト、ブラジル、イタリア、チェコスロバキア、ユーゴスラビア、ポーランド、ウルグアイ（ローマ大会の1位から8位までの8チーム）
- 2 フェルトリコ、ベルー（1963年度パンアメリカン大会の1位と2位の2チーム）
- 3 フィンランド、ハンガリ（1964年のヨーロッパ選手権大会の1位と2位の2チーム）
- 4 アラブ連合（1964年のアフリカ選手権大会の1位）
- 5 日本（開催国）
- 6 1964年9月に横浜で行なわれるプレオリンピックトーナメントの1位と2位の2チーム

●競技の方法

参加する16チームを8チームずつのAおよびBの2グループに分け、各グループでリーグ戦を行ない、各グループごとに1位から8位まで決定する。次にA、B両グループの1、2位チーム計4チームで準決勝（Aグループの1位とBグループの2位、Aグループの2位とBグループの1位）を行ない、それぞれの勝者で決勝を行ない、敗者で3、4位を決定する。また順位を決定するためにA、B両グループの3、4位の計4チームで5位から8位までを決定する。競技時間は、前半20分、休憩10分、後半20分である。

- フリースローのときは、球が選手の手をはなれるまで、静止しなくてはならない。

4 ボクシング

●場所 後楽園アイスパレス

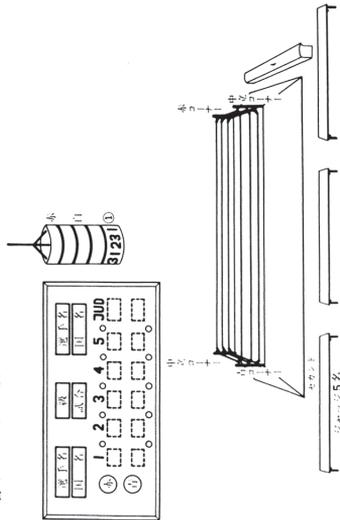
●競技を行なう日

10月	11日	12日	13日	14日	15日	16日
14 00	子選	子選	子選	子選	子選	子選
~21 00	子選	子選	子選	子選	子選	子選

17日	18日	19日	20日	21日	23日
子選	子選	子選	子選	準決勝	決勝

〔競技会場図〕

① ボクシング計時装置は円筒形の時計で、4等分されその上の白色部分で3分の競技時間が、その上部の赤色部分で1分の休憩時間が表される。円筒の内部は10秒ごとに1灯の割り合いで消えてゆき競技時間の経過を表示する。各ラウンドは最下部の数字によって表示される。



●種目

- フライ級
- バンタム級
- フェザー級
- ライト級
- ライトウェルター級
- ウェルター級
- ライトミドル級
- ミドル級
- ライトヘビー級
- ヘビー級

●申し込みの人数

- 1 国10階級に対して10名
- 1 国1階級に対して1名 補欠なし

●競技の方法

トーナメント方式で各階級とも参加全選手により抽せんを行ない組み合わせを決める。決勝戦の勝者を1位、敗者を2位準決勝での敗者2名をそれぞれ3位とし、3位決定戦は行なわない。また組み合わせのときにシニード制は採用しない。

●ローマ大会の成績 (優勝)

フライ級	トログ	(ハンガリー)
バンタム級	グリゴリエフ	(ソビエト)
フェザー級	ムソフ	(イタリア)
ライト級	バンジョール	(ポーランド)
ライトウェルター級	ネメセク	(チェコスロバキア)
ウェルター級	ベンベヌツチ	(アルカリア)
ライトミドル級	マックレーア	(アメリカ)
ミドル級	クルック	(アメリカ)
ライトヘビー級	クレー	(アメリカ)
ヘビー級	デビコリ	(イタリア)

●審判の判定に不満なため、口笛をならしたり、さわいだりしないようにしましょう。

5 カヌー

●場所 相模湖カヌー競技場

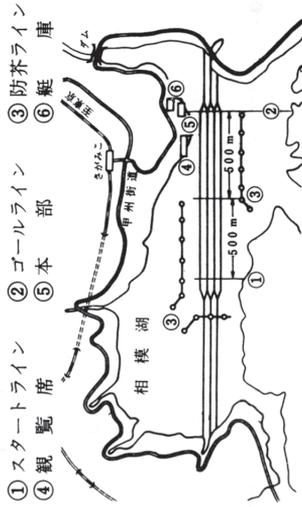
●競技を行なう日

10月	20日	21日	22日
競技時間	10.00~12.30	10.00~11.50	
試合	予選	準決勝	決勝
競技時間	15.00~16.00	15.00~15.40	14.00~16.00
試合	敗者復活戦	準決勝	決勝

●種目

- 男子 カヤックシングル (K1) 1,000メートル
- カナデアシングル(C1) 1,000メートル
- カヤックペア (K2) 1,000メートル
- カナデアアンペア (C2) 1,000メートル
- カヤックフォア (K4) 1,000メートル
- 女子 カヤックシングル (K1) 500メートル
- カヤックペア (K2) 500メートル

〔競技会場図〕



●申し込みの人数

個人レースには1国1名、クルーレースには1クルーの申し込みとし、補欠は全種目通して2名

種目	人数
カヤックシングル	1
カナデアシングル	1
カヤックペア	2
カナデアアンペア	2
カヤックフォア	4
女子カヤックシングル	1
カヤックペア	2
合計	13

●競技の方法

組み合わせは抽せんによる。予選、敗者復活戦、準決勝、決勝の順に行ない(申し込み数により省略することもありうる)。そのレースの3位までにはいった艇が次のレースへの出場資格を得る。予選レースで次の準決勝への出場資格を失った艇が敗者復活戦に出場し、3位までにはいった艇は、予選で3位までにはいったと同じ資格で準決勝に出場できる。

●ローマ大会の記録

種目	国名	記録
男子カヤックシングル	デンマーク	3分53秒06
カナデアシングル	ハンガリー	4分33秒93
カヤックペア	スウェーデン	3分34秒73
カナデアアンペア	ソビエト	4分17秒94
女子カヤックフォア	—	—
カヤックシングル	ソビエト	2分08秒08
カヤックペア	ソビエト	1分54秒76

6 自転車競技

- 場所 八王子自転車競技場 八王子ロードレースコース
- 競技を行なう日

10月	14日	15日	16日	17日	18日
競技開始時間	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
種目	個人ロードレース	個人追い抜き予選	個人追い抜き決勝	個人追い抜き決勝	個人追い抜き予選
競技開始時間	14.00	14.00	14.00	14.00	14.00
種目	タイムトライアル	スクラッチ	個人追い抜き決勝	スクラッチ	個人追い抜き決勝

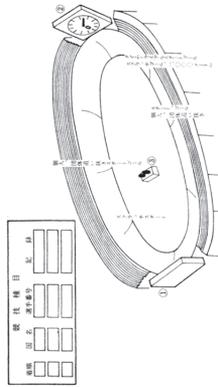
19日	20日	21日	22日
10.00	14.00	10.00	10.00
個人ロードレース	個人追い抜き決勝	個人追い抜き決勝	個人ロードレース

● 種目

- 1 トラック種目
 - (1) 1000メートルタイムトライアル
 - (2) スクラッチレース
 - (3) タンデムレース

〔競技会場図〕

- ① 電光掲示板
- ② 自転車競技用秒大時計 秒を1周60秒の大時計によって測かれ、それの時間が電光数字によって文字盤に表示される。時計の進発、停止は手動または運動ストップウォッチ、運動用ピストルなどと運動して行なわれる。
- ③ 追い抜き表示器 追い抜きレースで各1周ごとにどこからかの選手あるいはチームが先行しているかを表示する。装置は光電管を利用して自動的に動く。



- (4) 4000メートル個人追い抜きレース
- (5) 4000メートル団体追い抜きレース

2 ロード種目

- (1) 個人ロードレース
 - (2) 団体ロードレース
- 申し込みの人数
- 1000メートルタイムトライアル
- スクラッチレース

1名
2名
1組(2名)

タンデムレース

4名
4名

4000メートル個人追い抜きレース

個人ロードレース

1チーム(4名)

4000メートル団体追い抜きレース

個人ロードレース

個人ロードレース

個人ロードレースのチーム構成員は他の種目に参加しているものの中から選ばなければならない。なお全種目につき、2名の補欠がみとめられている。

● 競技の方法

- 1 1000メートルタイムトライアル
選手は1名で走り、その時間で順位が決まる。
- 2 スクラッチレース、タンデムレース 2名～3名で出発してトラックを2周(タンデムレースは4周)するうちの、ゴール前200メートルの間で競走して早くゴールにはいった選手が勝つとなる。
- 3 4000メートル個人(団体)追い抜きレース
競技場のホームスタートレックとバックスタートレックから同時に出発して相手を追い抜いた選手(団体の場合は第3番目の選手が他の第3番目の選手を追い抜いたチーム)が勝つとなり追い抜けなかったときは早く4000メートルを走った選手(チーム)が勝つとなる。
- 4 個人(団体)ロードレース
規定の距離を早く走った選手が勝ちである。団体レースの場合は、チーム4名のうちの3番目の選手の時間をはかり、その時間で順位が決まる。

● ローマ大会の記録

- (1) 1000メートルタイムトライアル
ガイアルドニ(イタリア) 1分07秒27
 - (2) スクラッチレース
ガイアルドニ(イタリア)
 - (3) タンデムレース
アリエンティ、テスタ(イタリア)
 - (4) 4000メートル個人追い抜きレース
イタリヤ
 - (5) 4000メートル団体追い抜きレース
シヨミット(ドイツ)
 - (6) 個人ロードレース
イタリヤ 2時間14分33秒53
- ロードレースのときは、定められた位置で応援し、車道に当たらないこと。

7 フェンシング

●場所 早稲田大学記念会堂

●競技を行なう日

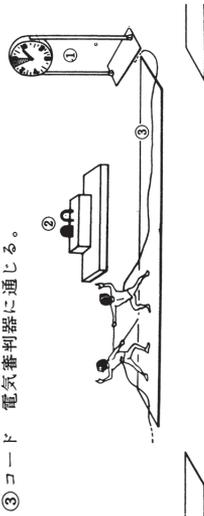
10月	13日	14日	15日
フルール	8:30~20:00 男子個人戦予選 (19:00まで) 女子個人戦決勝リーグ	男子個人戦予選 女子個人戦決勝	男子団体戦予選 女子個人戦決勝リーグ
10月	18日	19日	20日
エペ	個人戦予選 (19:00まで)	個人戦決勝	団体戦予選
サーブル	8:30~20:00	個人戦予選	個人戦決勝
16日	17日		
男子団体戦予選決勝 女子団体戦予選	男子団体戦予選 女子団体戦決勝		
21日	22日	23日	
団体戦予選決勝	団体戦予選	団体戦予選、決勝	

●種目

個人競技	団体競技
フルール 男子、女子	フルール 男子、女子

【競技会場図】

- ① フェンシング競技時間計 12分で1周する指針によって競技の残り時間を表示する。文字板の残り1分の部分は赤色になっており女子の10分競技の場合には残り10分以後の色み内部照明をすする。
- ② 電気審判器（フルール、エペのみ）
- ③ コード 電気審判器に通じる。



エペ 男子
サーブル 男子

エペ 男子
サーブル 男子

●申し込みの人数

1国の参加者の申し込みは、個人と団体競技で総数は20名まで。個人競技の1種目につき1国から3名まで申し込み出場できる。

団体競技は、1国1チーム5名まで申し込みができ、そのうちの4名出場できる。

●競技の方法

個人競技は申し込みの人数によって、いくつかの6~8名のグループをつくり、各グループでリーグ戦を行ない、上位4名を決める。このようにして32名の選手になったら、トーナメントを行ない上位4名を決める。4名はリーグ戦を行ない1位~4位を決定する。

団体競技は、申し込み数によって、2、3チームを一つのグループとしてリーグ戦を行なう。上位のチームを選んで次にトーナメントを行ない順位を決める。

試合時間は、予選では男子は3種目とも6分、女子（フルール）は5分である。決勝は男子12分、女子10分である。

●ローマ大会の記録

個人	1位	2位	3位
フルール(男)	シダピッチ(ソビエト)	シネン(ソビエト)	アケセルド(アメリカ)
フルール(女)	ジュニット(ドイツ)	ラトボロフ(ソビエト)	ニコル(ルーマニア)
エペ	デルフィン(イタリヤ)	ジェイ(イギリス)	カバロフ(ソビエト)
サーブル	カルバチ(ハンガリー)	ハルバート(ハンガリー)	カラレス(イタリヤ)
団体	1位	2位	3位
フルール(男)	ソビエト	イタリヤ	ドイツ
フルール(女)	ソビエト	ハンガリー	イタリヤ
エペ	イタリヤ	イギリス	ソビエト
サーブル	ハンガリー	ポーランド	イタリヤ

9 体 操

●場所 東京体育館

●競技を行なう日

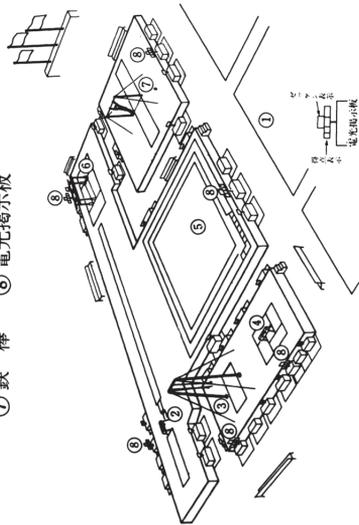
10月	18日	19日	20日	21日	22日	23日
午前 (8.30～)	男子規定	女子規定	男子自由	女子自由		
午後 (17.00～)	男子規定	女子規定	男子自由	女子自由	(18.00～)	(18.00～)
					男女種目別	男女種目別

●種目

男子 (団体・個人) 鉄棒、吊環、平行棒、鞍馬、跳馬、床運動 (徒手)
 女子 (団体・個人) 段違い平行棒、平均台、跳馬、床運動 (徒手)

[競技会場図](男子)

- ① 本部
- ② 鞍馬
- ③ 跳馬
- ④ 吊環
- ⑤ マット (床運動)
- ⑥ 平行棒
- ⑦ 鉄棒
- ⑧ 電光掲示板



●申し込みの人数

1 男女それぞれ6名、補欠1名の計7名の1チームを申し込むことができる。チームとして申し込むをしない国は1ないし3名の選手を個人競技者として申し込むことができる。個人種目別競技では、それぞれの各種目での上位6名が参加することになっている。

●競技の方法

(1) 団体総合競技

1 チーム6名が各種目でそれぞれ規定および自由問題を演技し、そのチームの上位5名の得点合計によって順位を決定する。男子600点満点、女子400点満点

(2) 個人総合競技

各種目の規定、自由問題の得点の合計による。男子120点満点、女子80点満点

(3) 個人種目別競技

総合競技で各種の上位6名が演技に参加する。総合競技の得点の次にさらにもう1回行なう種目別自由問題の演技得点を合計して順位を決める。各種目20点満点

●ローマ大会の記録

団体総合	男 子			女 子		
	選手名	国名	得点	選手名	国名	得点
個人総合	ジャハリン	ソビエト	575.20	ラチニナ	ソビエト	399.32
鉄棒	小野 節	日本	115.95	ラチニナ	ソビエト	77.031
吊環	平行棒	シャハリン	ソビエト	19.40	(決選) 平行棒	ソビエト
鞍馬	跳馬	アザリアン	ソビエト	19.725	7スタコフ	19.616
床運動	相原信行	日本	19.375			
鞍馬	小野 節	日本	19.45	ラチニナ	ソビエト	19.583
跳馬	馬場 均	日本	19.35	ニコレフ	ソビエト	19.316
平均台				ボサコフ	ソビエト	19.283

●演技中は拍手をしたり、さびげ声を出したりしないで静かに観覧しましょう。

●演技が終わったら拍手をしてその健闘をたたえましょう。

10 ウェイトリフティング

●場所 渋谷公会堂

●競技を行なう日

10月	11日	12日	13日	14日
10.00~14.00	バンタム級	フェザー級	ライト級	ミドル級
16.00~20.00	バンタム級	フェザー級	ライト級	ミドル級

16日	17日	18日
ライトヘビー級	ミドルヘビー級	ヘビー級
ライトヘビー級	ミドルヘビー級	ヘビー級

●種目

バンタム級 56キログラムまで

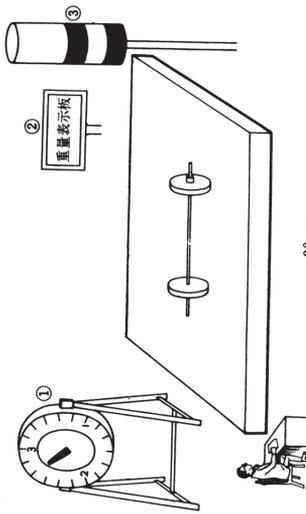
フェザー級 60キログラムまで

〔競技会場図〕

① 競技開始制限時間計 試技者は名前を呼ばれてから試技にはいるまで3分間の制限時間を計時する、指針は3分で1周するが2分経過すると1度アラームがなって警告を与える。

② 重量表示板

③ 判定表示板 1名の主審と2名の副審が判定し成功のときは赤ランプ・失敗のときは赤ランプのボタンを押します。これが表示器にあらわれ、青が2つの場合は成功を示します。



- ライト級 67.5キログラムまで
- ミドル級 75キログラムまで
- ライトヘビー級 82.5キログラムまで
- ミドルヘビー級 90キログラムまで
- ヘビー級 90キログラムをこえるもの

●申し込みの人数

7階級について1国7名。

各階級の最大申し込み人員は2名、補欠なし。

●競技の方法

プレス、スナッチ、ジャークの3方法であげた重量の合計によって順位を決定する。

試技の重量は各自の希望により、プレス、スナッチ、ジャークのそれぞれについて3回の試技ができる。1回目から2回目へは5キログラム以上、2回目から3回目へは2.5キログラム以上の増加が、成功、不成功にかかわらずできる。失敗に対しては同重量での試技は認められるが、減量は認められない。はじめは参加者の希望重量の最も軽いものから始めつぎつぎに増加していく。

各階級とも出場者を三組に分け、午前と午後に行なう。

●ローマ大会の記録

種目	選手名	国名	記録
バンタム級	ビンチ	アメリカ	345.0kg
フェザー級	ミナエフ	ソビエト	372.5kg
ライト級	アシエフ	ソビエト	397.5kg
ミドル級	クリノフ	ソビエト	437.5kg
ライトヘビー級	パリンスキ	ポーランド	442.5kg
ミドルヘビー級	ポロビエフ	ソビエト	472.5kg
ヘビー級	ウラソフ	ソビエト	537.5kg

●演技開始から終了までの間は、静かに観覧しましょう。

11 ホ ッ ケ ー

- 場所 駒沢第1ホッケーフールド、駒沢第2ホッケーフールド、駒沢第3ホッケーフールド

● 競技を行なう日

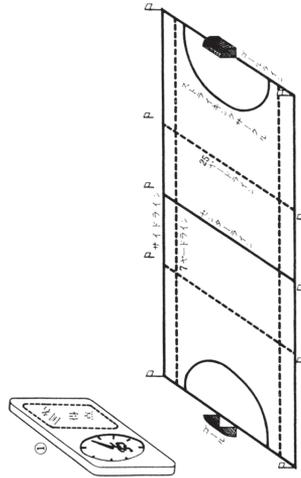
10月	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日
競技時間	10.00～13.00	10.00～13.00	11.40～13.00	10.00～13.00	10.00～13.00	11.40～13.00	10.00～13.00
駒沢第1ホッケーフールド	○	○	○	○	○	○	○
競技時間	10.00～15.35	10.00～13.00	10.00～13.00	10.00～15.35	10.00～13.00	10.00～13.00	10.00～13.00
駒沢第2ホッケーフールド	○	○	○	○	○	○	○
競技時間	10.00～15.35	10.00～11.20	10.00～15.35	10.00～11.20	10.00～15.35	10.00～11.20	10.00～11.20
駒沢第3ホッケーフールド	○	○	○	○	○	○	○

18日	19日	20日	21日	22日	23日
10.00～13.00	○	○	◎	◎	◎
10.00～15.35	○	○	◎	◎	◎
10.00～15.35	○	○	◎	◎	◎
10.00～15.35	○	○	◎	◎	◎

(○)グループ総当たりリーグ戦、◎順位決定戦、◎準決勝、◎決勝

[競技会場図]

- ① ホッケーフールド 競技時間計時大時計、電光掲示板



● 参加チーム

参加チームは国際ホッケーフールド連盟で定めた選抜方法による16チームで、次のとおり決定している。

- 1 パキスタン、インド、スペイン、イギリス (ローマ大会の上位4チーム)
- 2 日本 (開催国)
- 3 ドイツ、ベルギー、オランダ、ポーランド (ヨーロッパ代表4チーム)
- 4 ケニア、アラブ連合、ロシア (アフリカ代表3チーム)
- 5 オーストラリア、ニュージーランド、マレーシア、(アジアおよびオーストラリア代表3チーム)
- 6 カナダ (南中北アメリカ代表1チーム)

● 競技の方法

参加する16チームを8チームずつの2グループに分け、各グループでリーグ戦を行い、各グループの上位2チーム、計4チームで準決勝 (Aグループの1位とBグループの2位・Aグループの2位とBグループの1位) を行なう。準決勝で勝った2チームで決勝戦を行ない、2位を、敗れた2チームで3、4位を決める。各グループの3、4位の計4チームで5、6位を決める。
競技時間は前半35分、休憩10分、後半35分である。

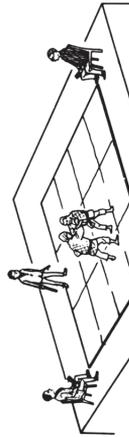
12. 柔 道

- 場 所 日本武道館
- 競技を行なう日

10月	20日	21日	22日	23日
競技時間	軽 量 級	中 量 級	重 量 級	体 重 無 差 別 級
13 00～	19 00			

〔競技会場図〕

柔道競技時間計 競技の経過時間は10分で1周する時計によって行なわれる。抑込み時間は10分計の文字板の周囲の下半分に配置された30個のランプが抑込みの合図と同時に1秒ごとに順次点灯していく。ランプは0～19秒までは白色、20～24秒までは青色、25～30秒までは赤色になっている。



- 種 目
 - 軽量級 68キログラム以下
 - 中量級 80キログラムをこえ80キログラム以下
 - 重量級 80キログラムをこええるもの
 - 体重無差別級 重量に制限がない
- 申し込みの人数
 - 1 国4名までで、この4名の範囲内で一つの級に2名まで申し込みができる。
 - 補欠はみとめられない。

- 競技の方法
 - 参加する選手を3名一組（参加選手数によって4名のグループの場合もある）のグループに分け各グループでリーグ戦（予選リーグ）を行なう。各グループの1位でトーナメント戦（決勝トーナメント）を行ない順位（1位1名 2位1名 3位2名）を決める。
 - 1国から同一種目に2名参加する場合はその種目の決勝まで対戦しないように組み合わせを考慮する。
 - 試合時間は予選リーグは5分、決勝トーナメントは10分、決勝戦だけは15分である。

世界選手権大会優勝者

- 第1回 東京 1956 夏 井 吉 日 本
- 第2回 東京 1958 曾 根 康 晴 日 本
- 第3回 パリ 1962 ヘーシンク オランダ

14. 水泳および飛び込み

●場所 屋内総合競技場本館

●競技を行なう日

10月	11日	12日	13日	14日
時 間	9.30～13.30	10.00～13.00	9.30～13.30	10.00～13.00
試 合	予 選	予選、決勝	予 選	予選、準決勝
時 間	16.30～21.00	17.30～21.00	16.00～21.00	18.30～21.00
試 合	予選、準決勝	予選、準決勝、決勝	予選、準決勝、決勝	決 勝

15日	16日	17日	18日
9.30～13.30	10.00～13.00	9.30～13.30	10.00～12.00
予 選	予 選	予 選	決 勝
17.00～21.00	17.30～21.00	16.00～21.00	16.00～18.00
予選、決勝	予選、決勝	予選、準決勝、決勝	決 勝

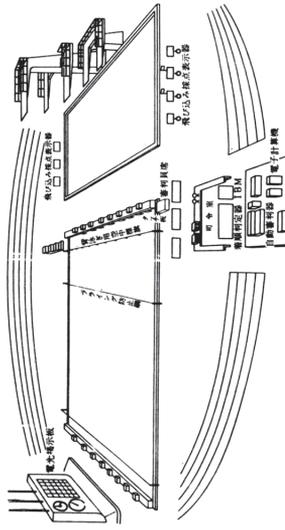
●種目

1)個人種目

○男子 100m自由形、400m自由形、1500m自由形、200m背泳ぎ、200m平泳ぎ、200mバタフライ、400m個人メドレー、飛び板飛び込み、高飛び込み

○女子 100m自由形、400m自由形、100m背泳ぎ、200m平泳ぎ、100mバタフライ、400m個人メドレー、飛び板飛び込み、高飛び込み

〔競技会場図〕



(2)団体種目

○男子 400m自由形リレー (4×100m)

800m自由形リレー (4×200m)

400mメドレーリレー (4×100m)

○女子 400m自由形リレー (4×100m)

400mメドレーリレー (4×100m)

●申し込みの人数

1)国からの申し込みの人数は個人種目は1種目につき3名までである。

団体種目は、1種目1チームで、1チームは6名まで申し込むことができるがそのうちの4名が競技に参加できる。

●競技の方法

水泳では予選、決勝(参加者数により準決勝が行なわれる。)によって順位を決める。予選(準決勝)のレースに参加した選手のうち、記録のよい上位8名が決勝に出場する。記録の測定は電子式自動審判装置を用いる。

飛び込みでは、制限選択飛びと自由選択飛びの演技を行う。それぞれの演技に対して審判員が採点し、その平均値に難易率(それぞれの種目に決められている。)を乗じたものが得点となり、その得点によって順位が決められる。

●ローマ大会の記録(抜すい)

	男	子	女	子
100m自由形	デビット(アメリカ)	55秒2	フレザー(オーストラリア)	1分01秒2
1500m自由形	コブラツズ(オーストラリア)	17分19秒6	——	——
200m平泳ぎ	マリケン(アメリカ)	2分37秒4	ロンスブロー(イギリス)	2分48秒5
200mバタフライ	トロイ(アメリカ)	2分12秒8	シューラー(アメリカ)	1分08秒5
800mリレー	アメリカ	8分10秒2	アメリカ	4分08秒9
飛び板飛び込み	トビアン(アメリカ)		クラマー(ドイツ)	
高飛び込み	ウェアスター(アメリカ)		クラマー(ドイツ)	

●演技が始まろうとするとき(スタート)は静かにしましょう。

●記録の発表のときは静かにしましょう。

●拍手、声援は節度をもってやりましょう。

15. 近代五種競技

● 場所

- 朝霞根津パーク
- 早稲田大学記念会堂
- 朝霞射撃場
- 屋内総合競技場本館
- 東京大学検見川総合運動場

● 競技を行なう日

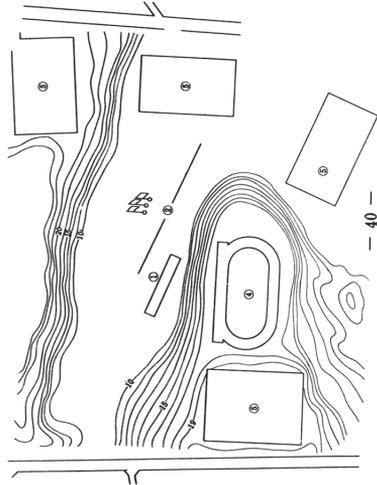
10月	11日	12日	13日	14日	15日	
競技時間	9.00~14.00	8.00~21.00	9.00~13.00	14.00~15.00	14.00~16.00	
種目	馬	術	フェンシング	射撃	水泳	クロスカントリ-

〔競技会場図〕(クロスカントリ-)

東京大学検見川総合運動場(クロスカントリ-会場)

- ① 選手席
- ② 参加国ポール
- ③ 表彰ポール
- ④ 陸上競技場
- ⑤ 蹴球場

クロスカントリ-レースのコースは競技会の当日発表される。



● 申し込みの人数

申し込みは1国から4名であるが出場できるのはそのうちの3名である。

● 競技の方法

馬術、フェンシング、射撃、水泳、クロスカントリ-を1日1競技ずつ行なう。選手の成績は各競技それぞれの規定にしたがって、点数で表わされる。その点数の5日間の合計で順位を決める。

馬術 1000ないし1500メートルに、障害物(10~23箇)をおいてある。

フェンシング エペの1本勝負で、参加選手が総当たり戦を行なう。

射撃 ピストルで20発ずつ。距離は25メートル。

水泳 自由形の300メートル。

クロスカントリ- 野原や林に4000メートルのコースがあり、選手は1分おきにひとりずつ出発する。

● ローマ大会の記録

個人	団体	1位	得点	2位	3位
人	体	ネメス(ハンガリー)	5,024	ナザ(ハンガリー)	ベック(アメリカ)
		ハンガリー	14,863	ソビエト	アメリカ

16. 馬術競技

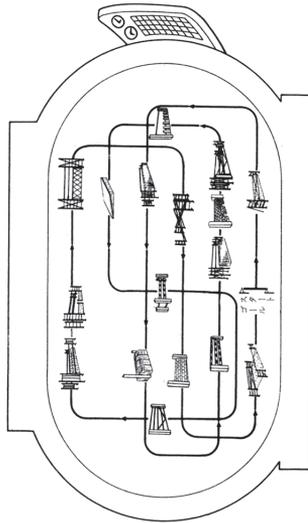
- 場所 馬事公苑
国立競技場
軽井沢総合馬術競技場

● 競技を行なう日

	16日	17日	18日
馬事公苑			
国立競技場			
軽井沢総合馬術競技場	9.30~16.30 (馬場馬術)	9.30~16.30 (馬場馬術)	9.30~16.30 (馬場馬術)
19日	22日	23日	24日
	10.00~13.30 大賞典馬場馬術	10.00~17.00 大賞典馬場馬術	
			8.00~16.00 大賞典障害飛越
13.00~16.30 (総合馬術)			

☆総合競技の出場選手数が50名未満のときは16日は行なわない。

〔競技会場図〕 ローマ大会の大賞典障害飛越競技会場図



● 競技種目

- 1 総合馬術競技
- 2 大賞典馬場馬術競技
- 3 大賞典障害飛越競技

● 申し込みの人数 (女子も参加できる。)

1 国の申し込みの人数は総合馬術競技4名他の2種目はそれぞれ3名で、3種目共通の補欠を1名加えて合計11名とする。女子はどの種目にも参加できる。

● 競技の方法

馬術競技はそれぞれの種目のなかで定められた方法で、審査員が競技中の失敗などを観察して減点してゆくのであって、その減点が少ない選手が上位となり順位が決められる。団体戦としてはべつに競技は行なわれないで、1国3名の個人の成績を合計してそれぞれ順位を決める。

ローマ大会優勝者

1 総合馬術競技(個人)	モーガン	(オーストラリア)	+7.15
(団体)	オーストラリア		-128.18
2.大賞典馬場馬術競技(個人)	フィラトフ	(ソビエト)	
(団体)			
3.大賞典障害飛越競技(個人)	デンゼオ	(イタリア)	-12
(団体)	ドイツ		-46.50

大賞典障害飛越競技の障害の配置は競技会の当日発表される。

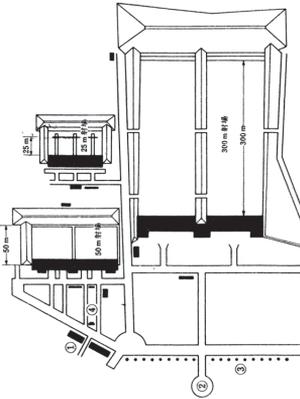
17 射 撃

- 場所 朝霞射撃場
所沢クレール射撃場
- 競技を行なう日

10月	15日	16日	17日
ライフル	9.00-15.30 フリーライフル 3姿勢 フル体射	9.00-11.30 スモールボウライ フル体射	
クレール	9.30-16.30 フリーライフル 伏射	9.30-16.30 クレールライフル 伏射	9.30-16.30 クレールライフル 伏射
	18日	19日	20日
	9.00-12.00 ラピッドファイアー レストル	9.00-13.00 ラピッドファイアー レストル	9.00-15.30 スモールボウ ライフル3姿勢

〔競技会場図〕(ライフル射撃場)

- ① 本部
- ② 聖火彰台
- ③ 参加国国旗ポール
- ④ 表彰台



● 種目

- フリーライフル 3姿勢
- スモールボウライフル 3姿勢
- スモールボウライフル 伏射
- フリーレストル
- ラピッドファイアーレストル
- クレールライフル

● 申し込みの人数

1国の申し込みは1種目につき2名で、合計10名まで申し込むことができる。

● 競技の方法

各種目とも選手は決められた弾数だけ 標的を撃ち、その成績を点数で表わして、その得点の多い者から順位を決める。

● ローマ大会の記録

種目	優勝	得点
フリーライフル 3姿勢	ハンメラ(オーストリア)	1,129
スモールボウライフル3姿勢	ジャンブルキン(ソビエト)	1,149
スモールボウライフル伏射	コーンケ(ドイツ)	590
フリーレストル	グスチエン(ソビエト)	560
ラピッドファイアーレストル	マクミラン(アメリカ)	587
クレールライフル	ドミトレストク(ルーマニア)	192

18. バレーボール

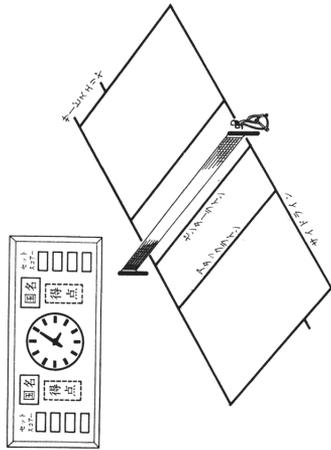
- 場所 駒沢バレーボール場、横浜文化体育館
- 競技を行なう日

	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
開始時間				11.00	11.00	11.00	11.00	13.00	13.00	11.00	11.00		
駒沢バレーボール場				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
開始時間				11.00	17.00	13.00	13.00	17.00	11.00	19.00			
横浜文化体育館				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
開始時間				17.00		15.-13.-17.00					17.00	11.00	
開始時間				15.00	19.00	13.00						19.00	
女				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

● 参加チーム

参加チームは国際バレーボール連盟で定められた方法によって選出された男子10チーム、女子6チームである。

〔競技会場図〕



- 男子1 ソビエト、チェコスロバキア、ルーマニア (1963年度世界選手権大会の1位から3位の3チーム)
- 2 ブラジル、アメリカ (1963年度パンアメリカン大会の1位と2位の2チーム)
- 3 日本 (開催国)
- 4 韓国 (アジア代表の1チーム)
- 5 アラブ連合 (アフリカ代表の1チーム)
- 6 ハンガリー、オランダ (ヨーロッパ代表の2チーム)

- 女子1 ソビエト、ポーランド (1963年度世界選手権大会の1位と2位)
- 2 ブラジル (1963年度パンアメリカン大会の1位)
- 3 日本 (開催国)
- 4 北朝鮮 (アジア代表の1チーム)
- 5 ルーマニア (ヨーロッパ代表の1チーム)

● 競技の方法

参加する男子 (10チーム) 女子 (6チーム) ともリーグ戦を行ない順位を決める。

1 試合は5セットで3セットをさきに勝ったチームが勝ちである。

試合は6人制なので得点は1セット15点で、サーブ権のあるチームが相手の失敗か味方の攻めききが決まった場合などに得点 (1点) になる。

サーブ権のないチームの場合には、サーブ権を得るだけで得点にはならない。

19. 水 球

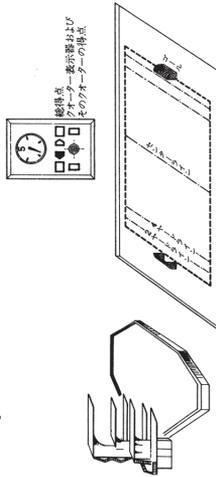
- 場所 東京体育館屋内水泳場
屋内総合競技場本館

● 競技を行なう日

10月	11日	12日	13日	14日
時 間 10:00~ 11:00	予選リーグ	予選リーグ	予選リーグ	準決勝リーグ 時 間 13:00~ 16:30 (1試合屋内)
時 間 16:30~ 21:00	予選リーグ	予選リーグ	予選リーグ	
	15日	16日	17日	18日
	準決勝リーグ (1試合屋内)		決勝リーグ 順位決定リーグ (1試合屋内)	

〔競技会場図〕

水球競技時間計 5分で1周する時計のほかクォーター表示器と両チームの得点表示器がついている、クォーター表示器は内部が4等分され第1クォーターではその1/4が内部照明され第2、第3クォーターはそれぞれ1/2あるいは3/4が内部照明される。



● 参加チーム

水球の東京大会への参加チームは次の16チームと決定している。

- 1 イタリア、ソビエト、ハンガリー、ユーゴスラビア、ルーマニア、ドイツ（ローマ大会の1位から6位までの6チーム）
- 2 ベルギー、オランダ、スウェーデン（ヨーロッパ代表の3チーム）
- 3 ブラジル、アルゼンチン、アメリカ（南北アメリカ代表の3チーム）
- 4 南アフリカ共和国、アラブ連合（アフリカ代表の2チーム）
- 5 オーストラリア（オーストラリア、ニュージーランド代表の1チーム）
- 6 日本（開催国）

● 競技の方法

運営委員会はシードチームを選出する権限をもっており、残りのチームは抽せんにより組み合わせを行なう。16チームは4チームのグループに分けられ、グループ内でリーグ戦を行なう。各グループの第1位、第2位の8チームで二つのグループにおいて準決勝リーグ戦を行なう。準決勝リーグ戦の1、2位の4チームで決勝リーグ戦を行ない順位を決める。各勝利チームで得点2点を、引き分けには得点1点を与え、得た得点はそのリーグ戦だけに有効であり、準決勝リーグ戦、決勝リーグ戦の順位はそのリーグ戦で得た得点に従って決められる。

20. 三 ツ ト

● 場所 相模湾

● 競技を行なう日

10月	12日	13日	14日	15日	16日
11.00 ～15.00	第1レース	第2レース	第3レース	第4レース	

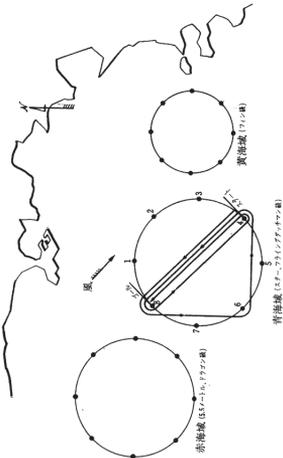
17日	18日	19日	20日	21日
			第5レース	第6レース
				第7レース

● 種目

- 5.5メートル級 ドラゴン級
- スター級 フライイングダッチマン級
- フィン級

〔競技会場図〕

競走は風に向かって進む距離を長くするため北西風の時はコースは図のように4（スタート）-8-6-4-8-4-8（ゴール）となっている。



● 申し込みの人数

- 5.5メートル級 3名
- ドラゴン級 3名
- スター級 2名
- フライイングダッチマン級 2名
- フィン級 1名

補欠の合計は全クラスについて3名以内とする。

● 競技の方法

コースは図のような円周上の8個のマークのうち、風下のマークからスタートし図のようにまわる。レースの日の天候（くに風向き）によってスタート地点が変わる。円の直径はフィン級では1.3漣（2,400メートル）他は2漣（3,700メートル）である。

各級とも1日1レースで、7日間競技をする。レースの順位に応じて定められた得点が与えられるが、7レースのうちいちばん悪い点を除いた6レースの合計点で順位をきめる。1レースの競技時間はだいたい2時間である。

● ローマ大会の記録

	1位	2位	3位
5.5メートル級	アメリカ	デンマーク	スイス
ドラゴン級	ギリシア	アルゼンチン	イタリヤ
スター級	ソビエト	ポルトガル	アメリカ
フライイングダッチマン級	ノルウェー	デンマーク	ドイツ
フィン級	デンマーク	ソビエト	ベルギー

21 芸術展示

芸術展示は、各競技と同じように開催しなくてはならない重要なものである。東京大会では、下の表のとおりにかかれ、日本の最高の芸術を紹介することになっている。

種目	会場および所在地	日 時	内 容
古美術	東京都立博物館 台東区上野公園1	39. 10. 1~11. 10 (41日間) 9. 00~16. 30	絵画 彫刻 工芸 建築 書道 展示予定 872点
近代美術	国立近代美術館 中央区京橋3~11	39. 10. 1~11. 8 (39日間) 10. 00~17. 00	絵画 彫刻 工芸 展示点数 延 200点
写 真	松屋 (銀座) 中央区銀座3~1	39. 10. 9~21 (13日間) 10. 00~18. 00	日本人写真作家55人のカラー一作 品 展示点数 約150点
スポーツ 郵便切手	逓信総合博物館 千代田区大手町2~1	39. 10. 1~21 (21日間) 9. 00~16. 00	日本のスポーツ郵便切手その他 の郵便切手、原画等 (郵政省所蔵のもの)
歌舞伎	歌舞伎座 中央区銀座4~3	39. 10. 2~27(26日間) 11. 00 開演 16. 00 開演	(注) 寺子屋 道成寺 野崎村 (夜) 鳴神 観獅子 助大
人影 じょうり	芸術座 千代田区有楽町1~14	39. 10. 3~12(10日間) 12. 00 開演 16. 00 開演 20. 30 "	熊谷圃屋等代表的古典ものを上 演
雅 楽	虎の門ホール(国教育会館) 千代田区霞が関	39. 10. 5~23(3日間) 夜 互の部 14. 00開演 夜の部 18. 00 "	絃 3曲 人形舞 1曲 舞楽 3曲
能 楽	本道能楽堂 文京区元町2~27 劇団会館(大曲) 新宿区新小川町12	39. 10. 5~9 10日間 39. 10. 12~16 18. 30 開演	能 1番、狂言 1番を原則とする 演者-能 5流が合同出演
古典舞踊 邦 楽	新橋舞臺 中央区銀座東6~9	39. 10. 16~20(5日間) 13. 00 開演 18. 00 開演	舞踊 5番、邦楽 2番 (全邦舞をるもので上演) 演者交渉中
民俗芸能	東京文化会館 台東区上野公園~2	39. 10. 17~18 (2日間) 18. 30 開演	北海道から沖縄までの代表的 民俗芸能 20番

国内オリンピック委員会一覧

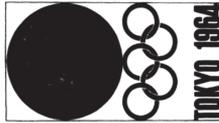
1	アフガニスタン	AFGHANISTAN
2	アルバニア	ALBANIA
3	アルジェリア	ALGERIA
4	アルゼンチン	ARGENTINA
5	オーストラリア	AUSTRALIA
6	オーストリア	AUSTRIA
7	バハマ	BAHAMAS
8	バルバドス	BARBADOS
9	ベルギー	BELGIUM
10	ベネチエーダ	BERMUDA
11	ボリビア	BOLIVIA
12	ブラジル	BRAZIL
13	イギリス領ギアナ	BRITISH GUIANA
14	ブルガリア	BULGARIA
15	ブルマ	BURMA
16	カンボディア	CAMBODIA
17	カメルーン	CAMEROONS
18	カナダ	CANADA
19	セイロン	CEYLON
20	チャド	CHAD
21	チリ	CHILE
22	コロンビア	COLOMBIA
23	コンゴ	CONGO
24	コスタリカ	COSTA RICA
25	キューバ	CUBA
26	チェコスロバキア	CZECHOSLOVAKIA
27	ダホメ	DAHOMEY
28	デンマーク	DENMARK
29	ドミニカ共和国	DOMINICAN REPUBLIC
30	エクアドル	ECUADOR
31	エルサルバドル	EL SALVADOR
32	エチオピア	ETHIOPIA
33	フィリ	FIJI
34	フィンランド	FINLAND
35	フランス	FRANCE
36	ドイツ	GERMANY
37	ギリシア	Ghana
38	イギリス	GREAT BRITAIN
39	ギリシア	GREECE
40	グアテマラ	GUATEMALA

41. ハイチ	HAITI	HAI	83. ベルギー	PERU	PER
42. ホンジュラス	HONDURAS	HON	84. フィリピン	PHILIPPINES	PHI
43. ホンコン	HONG KONG	HOK	85. ポーランド	POLAND	POL
44. ハンガリー	HUNGARY	HUN	86. ポルトガル	PORTUGAL	POR
45. アイスマン	ICELAND	ICE	87. プエルトリコ	PUERTO RICO	PUR
46. インド	INDIA	IND	88. ローマニア	RUMANIA	RHO
47. イラン	IRAN	IRN	89. ルーマニア	RUMANIA	RMA
48. イラク	IRAQ	IRQ	90. サンマリノ	SAN MARINO	SMA
49. アイルランド	IRELAND	IRL	91. セネガル	SENEGAL	SGL
50. イスラエル	ISRAEL	ISR	92. シエラレオネ	SIERRA LEONE	SLE
51. イタリア	ITALY	ITA	93. スペイン	SPAIN	SPA
52. 象牙海岸	IVORY COAST	IVC	94. スーダン	SUDAN	SUD
53. ジャマイカ	JAMAICA	JAM	95. スリナム	SURINAM	SUR
54. 日本	JAPAN	JPN	96. スウェーデン	SWEDEN	SWE
55. ヨルダン	JORDAN	JOR	97. スイス	SWITZERLAND	SWI
56. ケニア	KENYA	KEN	98. シリア	SYRIA	SYR
57. 韓国	KOREA	KOR	99. 台湾	TAIWAN	TWN
58. レバノン	LEBANON	LEB	100. タンガニーカ	TANGANYIKA	TAN
59. リベリア	LIBERIA	LBR	101. タイ	THAILAND	THA
60. リビア	LIBYA	LYA	102. トリニダード・トバゴ	TRINIDAD & TOBAGO	TRT
61. リヒテンシュタイン	LIECHTENSTEIN	LIC	103. チュニジア	TUNISIA	TUN
62. ルクセンブルグ	LUXEMBOURG	LUX	104. トルコ	TURKEY	TUR
63. マレーシア	MALAYSIA	MAL	105. アラブ連合	U. A. R.	UAR
64. マリ	MALI	MAL	106. ウガンダ	UGANDA	UGA
65. マルタ	MALTA	MAT	107. ウルグアイ	URUGUAY	URU
66. メキシコ	MEXICO	MEX	108. アメリカ	U. S. A.	USA
67. モナコ	MONACO	MON	109. U. S. S. R.	U. S. S. R.	URS
68. モンゴル	MONGOLIA	MGL	110. ヴェネズエラ	VENEZUELA	VEN
69. モロッコ	MOROCCO	MRC	111. ベトナム	VIET-NAM	VET
70. ネパール	NEPAL	NEP	112. 西インド諸島	WEST INDIES	WID
71. オランダ	NETHERLANDS	NLD	113. ユーゴスラビア	YUGOSLAVIA	YUS
72. オランダ	NETHERLANDS	NAN	114. インドネシア	INDONESIA	INA
73. ニューゼaland	NEW ZEALAND	NZL	115. 南アフリカ共和国	SOUTH AFRICA	SAF
74. ニカラグア	NICARAGUA	NGR	116. マダガスカル	MADAGASCAR	MAG
75. ニジェール	NIGER	NGR	117. 中央アフリカ	CENTRAL AFRICA	CAF
76. ナイジェリア	NIGERIA	NGA			
77. 北朝鮮	NORTH KOREA	NRH			
78. 北朝鮮	NORTH KOREA	NKO			
79. ノルウェー	NORWAY	NOR			
80. パキスタン	PAKISTAN	PAK			
81. パナマ	PANAMA	PAN			
82. パラグアイ	PARAGUAY	PAR			

注: (1)この資料は1964年6月現在オリンピック組織委員会調べ。
 (2)電光掲示板やプログラムには、選手やチームの国名(国内オリンピック委員会)が、この表にあるとおり、アルファベット3字で表示される。
 (3)本文中の国名は、アメリカ合衆国をアメリカン、ソビエト連邦をソビエトとるように略して使用している場合がある。



オリンピックの五輪の旗は、1914年にクーベレルタンが考案したものである。旗の中央に五つの輪が組み合わされ、色は青、黄、黒、緑、赤の順で、青色の輪が、旗の左上位、旗ざおのいちばん近いところにおかれる。この五つの輪は、五大州をあらわしているが、どの色がどの大陸という意味はない。



オリンピック東京大会組織委員会が決めたオリンピック東京大会のマークで、これは、日の丸が赤色、五輪と文字、数字は、金色となっている。

あとがき

本書作成にあたっては、次に掲げる文部省オリンピック普及資料作成委員が審議した。
 委員長 鈴木良徳
 委員 井上徳男
 野沢吉藏
 佐々木吉藏
 野沢要助
 川本信正
 堀沢幹
 宮尾敏
 齋藤正信
 齋藤永正
 吉田左源二
 西田泰介(ほか)
 (編集事務担当 文部省体育局オリンピック課長西田泰介ほか)

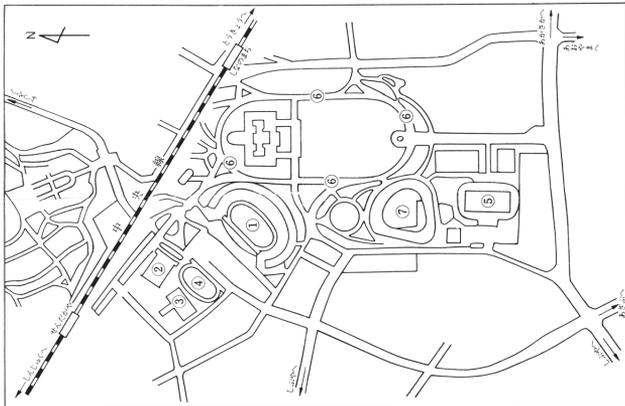
スポーツマン綱領

スポーツは人間だけでなく文化の一つである。これをより高く、より美しいものにするために、スポーツを行うものが必死である。美しいスポーツマンの姿は、このように世界のなかに生まれ、やがて生活の基として、社会のために貢献するであろう。ゆえに、スポーツマンは、競技場にあると同じ精神と態度で生活し、りっぱな社会人でなければならぬ。ここに其のスポーツがあまねくゆきわたり、すべての人のものとし発展することをねがい、スポーツマン綱領を定めた。

- ◎ 競技する者は、スポーツを愛好し、ひいてはそれを心と身体のかたとし、明るい光と空気のなかで純粋にスポーツを行なうこと。
- ◎ 競技する者は、スポーツを行なうことによつて社会的な利益を得ようという考えをもたないこと。
- ◎ 競技する者は、審判の判定を重んじ、その決定に満足しない場合でも、感情に支配されない行動をとること。
- ◎ 競技する者は、つねに明瞭で、相手を尊重しつづ自分の義務を尽くし、その成果に満足すること。
- ◎ 競技を審判する者は、規則に従つて公正に判断し、競技を明くる者にならぬこと。
- ◎ 競技を見る者は、感情にとらわれぬ応援をせず、美しい精神とすぐれたわざをたたえ、スポーツのよりよい発展をねがうこと。

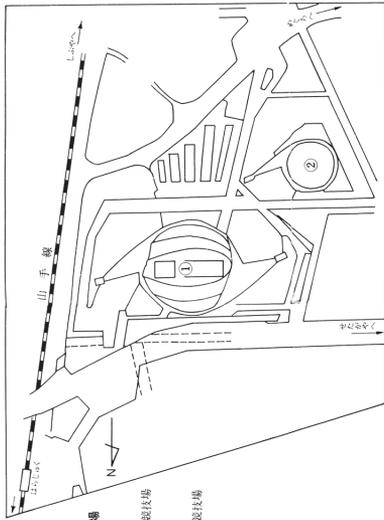
昭和39年9月 発行 (非売品)
 文部省
 東京都千代田区霞ヶ関3の4
 印刷 大日本印刷株式会社

(JOC 64—C—0139)



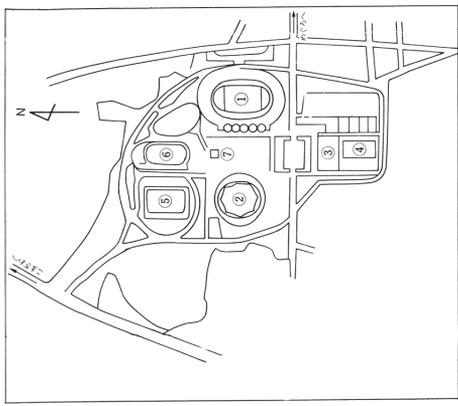
明治公園

- ① 国立競技場
- ② 東宮体育館
- ③ 東京体育館屋内水泳場
- ④ サpartクラブ
- ⑤ 相模宮カサビー場
- ⑥ 神宮体育館回コース
- ⑦ 明治神宮野球場



屋内総合競技場

- ① 屋内総合競技場本館
- ② 屋内総合競技場別館



新国立オリンピック公園

- ① 駒沢陸上競技場
- ② 駒沢体育館
- ③ 駒沢バレーホール場
- ④ 駒沢第1ホッケー場
- ⑤ 駒沢第2ホッケー場
- ⑥ 駒沢第3ホッケー場
- ⑦ 管理塔